

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

495

がん対策事業（乳がん）

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	7	健康で元気に暮らせる環境づくり
施策	1	健康づくりの推進
取組方針	2	成人保健対策の推進

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		衛生費	
	項		保健衛生費	
	目		成人保健対策費	
	大事業		成人保健対策事業	
中事業		がん対策事業（乳がん）		

事業種別	継続		関連個別計画	健康わかやま 2.1 推進計画		
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	地域保健課	上中 英人 488-5121
事業実施の根拠法令	健康増進法		関連課			

1 事業内容

事業目的	（「誰・何」をどういう状態にするための事業か）		全体事業概要			
	日本人の死亡原因第一位である「がん」を早期発見することで、早期治療に結びつけ、市民の健康保持を図り、自身の健康管理についての意識の向上も図る		乳がんは、早期発見を行えば、ほとんど治癒することから、乳房に発生するがんを早期に発見するため市医師会等に委託し、医療機関等による個別検診及び集団検診を実施			
事業内容	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	
	対象者：市民で40歳以上偶数年齢の女性 個別検診：問診、触診、視診、マンモグラフィ 集団検診：問診、マンモグラフィ	対象者：市民で40歳以上偶数年齢の女性 個別検診：問診、マンモグラフィ 集団検診：問診、マンモグラフィ	対象者：市民で40歳以上偶数年齢の女性 個別検診：問診、触診、視診、マンモグラフィ 集団検診：問診、マンモグラフィ	対象者：市民で40歳以上偶数年齢の女性 個別検診：問診、触診、視診、マンモグラフィ 集団検診：問診、マンモグラフィ	対象者：市民で40歳以上偶数年齢の女性 個別検診：問診、触診、視診、マンモグラフィ 集団検診：問診、マンモグラフィ	対象者：市民で40歳以上偶数年齢の女性 個別検診：問診、触診、視診、マンモグラフィ 集団検診：問診、マンモグラフィ

2 事業コスト

事業費等（千円）	平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	45,579	41,600	40,272	30,705	40,348	37,548	39,836	0	39,836	0
伸び率（%）	△0.3%	△1.7%	△11.6%	△26.2%	0.2%	22.3%	△1.3%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	4,269	4,108	3,822	3,981	3,414	3,491	3,258	0	3,258
	正規職員以外	923	729	977	609	819	838	819	0	819
	小計	5,192	4,837	4,799	4,590	4,233	4,329	4,077	0	4,077
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源（税等）	45,579	41,600	40,272	30,705	40,348	37,548	39,836	0	39,836	0
所要人数（人）	正規職員	0.53	0.51	0.48	0.50	0.44	0.45	0.42	0.00	0.42
	正規職員以外	0.57	0.45	0.53	0.33	0.43	0.44	0.43	0.00	0.43
主な予算内訳	印刷製本費487千円、がん検診委託料38,939千円等									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
活動指標	乳がん検診の受診者数	人	目標値					
			実績値	6058	5010	5789		
			達成度(%)	0%	%	%	%	%
成果指標	乳がん検診の受診率	%	目標値	50	50	50	50	
			実績値	9.3	8.4	8.2		
			達成度(%)	18.6%	16.8%	16.4%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	○ 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	健康増進を行うためには二次予防は大きな役割を担っている。 市民の方々に「自分の健康は自分で守る」との意識の向上を積極的に推進していきたい
見直し・改善内容	健康に対する意識向上に努めたい。